

栃木県

シニア災害ボランティア セミナー開催報告

平成28年2月1日（月）、ホテル東日本宇都宮にて栃木県、栃木県社会福祉協議会と当協会の主催による「シニア災害ボランティアセミナー」（防災対策研修会）が開催されました。

基調講演

13:10～14:50

災害時のボランティアの役割と
その後の復興
～被災すること、
その時ボランティアは～

宮城の地域福祉を考える会

代表幹事 北川進氏

基調講演では、日常の地域活動の中で災害ボランティアそのものを考える大切さを訴えられました。①残念ながら災害は今後も頻繁に起こるだろう。②起きてしまった災害を少しでも軽減するためにボランティアの力は欠かせない。③そして、ボランティアそのものを理解する必要がある。④ボランティアの力を活かすために受け入れ側（被災地側）



北川 進氏

宮城の地域福祉を考える会 代表幹事

1998年宮城県社会福祉協議会勤務、みやぎボランティア総合センター長、地域福祉推進係長を経て、2012年石巻市社会福祉協議会災害復興支援対策課に出向、ささえあい総括センター所長に就任。2014年より宮城県社会福祉協議会震災復興支援局主任主査、現在に至る。内閣府防災ボランティア活動検討委員、総務省消防庁災害対応能力と地域コミュニティの基盤・機能に関する検討会委員を初めとする委員等も多数歴任。

ンティアの在り方だけでなく、受け入れ側の問題を考えるうえで大変参考となる講演となりました。



に求められている役割がある。⑤このことを目頃から十分に考えておくことがとても重要。日常の地域活動の大切さを再認識、再確認して欲しい。今後のボランティアの在り方だけでなく、受け入れ側の問題を考えるうえで大変参考となる講演となりました。



鳥取県

シニア災害ボランティア シンポジウム開催報告

平成28年2月9日（火）、倉吉未来中心
セミナールームにて鳥取県と当協会主催によ
る「シニア災害ボランティアシンポジウム」
が開催されました。

冒頭に主催者を代表して城平守朗鳥取県
危機管理局長と当協会の廣澤事務局長が挨拶し、続いて四国大学短期大学部人間健康
科の日開野博教授による講演と各パネリスト
によるパネルディスカッションが行われました。

講演

13:10～14:10

阪神淡路大震災・東日本大震災
現地ボランティア支援から学ぶ

四国大学短期大学部人間健康科

教授 日開野博氏

講演では特に災害時要配慮者（高齢者や障がい者）への支援プログラムの策定や、地域の『絆』を作り直すことの重要性についてお話しいただきました。

パネルディスカッション

14:20～16:00

シニアが支える地域の防災
～地域で生きるセカンドライフ～

【コーディネーター】

四国大学短期大学部人間健康科

教授 日開野博氏

【パネリスト】

災害ボランティア経験者

湯口義幸氏

日本赤十字社鳥取県支部

職員 船越久登氏

日野ボランティア・ネットワーク事務局

局長 松田暢子氏

徳島県社会福祉協議会総務企画課

課長 伊原俊子氏

パネルディスカッションでは実際の活動現場におけるシニアの役割や、安心・安全な地域づくりに向けた地域コミュニティでの取り組み等について各方面から貴重なご意見をいただきました。

今後のボランティアの在り方などを考えるうえで大変参考となる講演となりました。



日開野 博氏

四国大学短期大学部人間健康科 教授

阪神淡路大震災四国四県社協支援により、第一陣の淡路島ボランティアベースキャンプを立ち上げ現在も被災地の高齢者と学生との交流活動を継続中。また東日本大震災支援では、2011年から毎年学生たちとともに仮設住宅での交流活動や被災者復興支援活動を行っている。現在、徳島県社会福祉協議会総合企画委員会副委員長、とくしまボランティア推進センター委員長なども務める。

